

Health Inequalities Among Elderly Type 2 Diabetes Mellitus Patients in Japan

姜, 鵬

<https://hdl.handle.net/2324/4060051>

出版情報 : 九州大学, 2019, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : (C) Peng Jiang et al. 2019; Published by Mary Ann Liebert, Inc. This Open Access article is distributed under the terms of the Creative Commons License

(別紙様式2)

氏名	姜 鵬
論文名	Health Inequalities Among Elderly Type 2 Diabetes Mellitus Patients in Japan
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 小川 佳宏 副 査 九州大学 教授 鴨打 正浩 副 査 九州大学 教授 笹栗 俊之

論文審査の結果の要旨

近年、社会経済的地位（SES）が健康格差におよぼす影響が注目されている。本研究では、後期高齢2型糖尿病患者においてSESが健康アウトカムにもたらす影響を検討した。健康アウトカムとして、経口血糖降下薬（OHA）のアドヒアランス（proportion of days covered: PDC）、大血管合併症による入院、院内死亡を解析した。2013年から2016年までのレセプトデータを使った後ろ向きコホートデザインであり、2013年時点で75歳以上の58349名を対象にした。健康格差の性差を考慮しつつ、所得のPDCにおよぼす影響の解析ではロジスティック回帰を行い、入院と院内死亡リスクの解析では生存分析を行なった。交絡要因は性別の他、年齢、居住地域と合併症を考慮した。

PDCに関しては、男性低所得者に対して、中所得者のORは1.33(95%CI:1.24~1.42, $p<0.01$)、高所得者のORは1.39(95%CI:1.28-1.51)であった。女性低所得者に対して、中所得者のORは1.18(95%CI:1.12-1.24)、高所得者のORは1.25(95%CI:1.14-1.37)であった。

大血管疾患入院に関しては、男性のCOX回帰により、低所得者に対して中所得者のHRは0.88(95%CI:0.80-0.96)、高所得者のHRは0.88(95%CI:0.79-0.99)であった。女性はそれぞれ1.00(95%CI:0.93-1.07)と0.95(95%CI:0.83-1.08)であった。

院内死亡に関して、男性のCOX回帰により、低所得者に対して中所得者のHRは0.83(95%CI:0.75-0.91)と0.62(95%CI:0.54-0.70)であった。女性はそれぞれ0.94(95%CI:0.87-1.02)と0.77(95%CI:0.65-0.92)であった。

本論文は後期高齢者糖尿病の実臨床に新しい示唆を与えるものであり、SESの悪い対象者はOHAアドヒアランスが悪く(男性・女性ともに)、大血管合併症による入院リスク(男性)と院内死亡リスク(男性・女性ともに)が高いことが明らかになった。

本論文についての試験では、本研究の目的・方法・実験結果と解釈・意義の概要について説明を求め、各調査委員より本論文の内容に関連する事項について、専門的立場から質問を行い、概ね満足すべき回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。